

湖周ごみ処理施設事業方式検討委員会 要旨

第1回 委員会

日時 平成24年4月24日

午後2時00分～3時30分

場所 岡谷市役所

第1回委員会では、今回のごみ処理施設建設に係る経緯、既存施設の概要と過去策定された「広域ごみ処理施設計画」の説明と確認を行いました。新施設については効率的な建設、運営・維持管理の手法であるPFI方式の検討を行うこととしました。

PFI方式の検討に当たっては、各手法の特徴、評価項目および評価方法について確認しました。

第2回 委員会

日時 平成24年5月24日

午後1時55分～3時25分

場所 岡谷市役所

第2回委員会では、国内において採用されている事業手法を確認しました。組合にふさわしい事業手法を選択するため、組合が重要と考える3つの条件「廃棄物処理の責任を組合が果たせること」「住民に受け入れられる手法であること」「効率的な手法であること」を設定し、この条件を満たす事業手法として「DBO方式」「BTO方式」を抽出、これに従来型手法である「公設公営」を含めて比較評価を行うこととしました。

3つの手法の比較を行うため市場調査を行うこととし、前提条件として事業スキームとプラントメーカーに依頼するアンケート内容を検討しました。

第3回 委員会

日時 平成24年7月25日

午後1時55分～3時50分

場所 岡谷市役所

第3回委員会では、事務局が行った市場調査の結果について説明を行いました。調査はプラントメーカー6社に依頼し、2社は一部の回答でしたが、残り4社から全ての項目で回答を得ることができました。

評価は3つの項目について行いました。

1つ目として経済性の評価を行いました。その結果、得られたVFM (Value for Money) では、

「DBO方式」>「BTO方式」>「公設公営」

の順に経済性が高いことが確認されました。

次に「事業選定」および「事業実施」の各段階において、組合に適した手法であるか評価したところ、

「DBO方式」＝「BTO方式」＞「公設公営方式」

の順に優れていることが確認されました。

最後に民間事業者の参入意向を評価したところ

「DBO方式」＝「公設公営」＞「BTO方式」

の順に意向があることが確認されました。

3つの項目において評価の高かった「DBO方式」が組合に適した事業手法であることが分かりました。

次回委員会に最終的な提言書をまとめ組合長に提出することとなりました。

第4回 委員会

日時 平成24年8月17日

午後1時55分～2時55分

場所 岡谷市役所

第4回委員会では、事業方式を「DBO方式」に決定し、提言書を取りまとめました。提言書は委員会の中で、即日、今井組合長に提出しました。

提出された提言書は別紙の通り。